

さいたま合材工場 再編工事が完了

NIPPO

NIPPOが「さいたま合材工場」(さいたま市西区)で実施していた再編工事が完了した。敷地を有効

更新された新工場



活用し老朽化したアスファルトプラントや付属施設などを更新。子会社の大宮アスコンがアスファルト合材などを製造・出荷する。6日に大宮区のパレスホテル大宮で開所式を開き、関係者ら約30人が完成を祝った。

建設地は西区三橋6の70

(敷地面積約1・9畝)。敷地南側の寮や研修施設、工事担当事務所などを段階的に撤去。旧施設を稼働させながら、アスファルトプラントやコルゲートサイ

ロ、新ストックヤード、新事務所などを建設した。

新骨材の保管方法をストックヤード方式からコルゲートサイロ方式に仕様変更するなど、粉じん・騒音対策に配慮した。工期は2018年8月1日～21年5月28日。土木工事などは大日本土木、プラント本体をNIPPOグループのMECXが施工した。

開所式でNIPPOの吉川芳和社長は「3年に及ぶ建物や設備の更新工事が完了した。安全で安心、快適に利用いただける空間を創ってきた」と語った。



NIPPOのグループ会社である大宮アスコン(さいたま市、樽見享治代表取締役)

安全・安心で快適 アス合材新工場が完成

大宮アスコン

は6日、さいたま市のパレスホテル大宮でアスファルト合材工場再編工事の完了に伴う新工場の開所式を行った。式典に当たっては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を徹底した。

同社は、2018年から工場再編工事を進め、21年5月に新工場が完成した。写真。老朽化した設備を更新したほか、新骨材の保管方法をストックヤード方式からコルゲートサイロ方式に仕様変更する

など、粉じん・騒音対策を行い周辺環境に配慮している。

樽見代表取締役は「新工場になり、お客さまが安心・安全に利用いただくことができ、スタッフも安全に効率よく作業が進められる。工場運営開始以来40年になるが、諸先輩方が築いてきたノウハウを継承し、今後も確かなものづくりを第一に考え、全力で業務に邁進していく」とあいさつした。

NIPPOの吉川芳和社長は「建物や設備の老朽化と場内環境のさらなる改善を図るため、旧工場南側の寮、研修施設、工事担当事業所を撤去移転させ、工場敷地を拡大し、お得意さまが安全で安心に利用いただける快適な空間を構築できた」と語った。

当日は、開所式に先立ち、地元自治会、施工会社、NIPPO関係者などによる工場見学も行った。

同社では、アスファルト合材の製造販売、地盤改良材であるテフロン処理防塵固化材の製造販売のほか、資源循環型社会の表現のため、さいたま市産業廃棄物処分業の許可

を取得しており、アスファルト廃材のほか、コンクリート廃材も受け入れ、リサイクルにも努める。